

- 問1 日本の農村地域では、農業や漁業といった第1次産業の生産者が、食品加工（第2次産業）や流通・販売（第3次産業）までを一貫して行う取り組みが広がっています。このような、各産業を連携・融合させて地域経済を活性化させる試みを何と呼びますか。（2019年 徳島県公立入試 類似）
1. グリーン・ツーリズム
  2. スマート農業
  3. アグリビジネス
  4. 第6次産業化
- 問2 日本の貿易統計において、ある港の輸入額の上位3品目を確認すると、通信機が15.7%、医薬品が10.4%、集積回路が9.6%となっていました。このような品目が貿易の中心となっている港（空港）の性質として、最も適切な説明はどれですか。（2019年 群馬県公立入試 類似）
1. 鉄鉱石や原油など、工業原料や燃料を中心とした重量が大きいものを扱っている。
  2. 衣服や食料品など、生活に密着した安価な消費物資を大量に輸入している。
  3. 通信機や医薬品など、重量が軽く高価で、付加価値の高い製品を主に扱っている。
  4. 自動車や船舶など、大型の輸送機械の輸出に特化した大規模な設備を持っている。
- 問3 福井県鯖江市の地場産業として知られる眼鏡フレームの国内市場において、2010年から2013年にかけて見られた産業構造の変化について述べた文として、正しいものはどれか。（2020年 茨城県公立入試 類似）
1. 国内需要の低迷により、国内製の出荷額と海外製品の輸入額がともに減少し、市場規模が縮小した。
  2. 製造コストの削減により国内製の出荷額が右肩上がりに増加し、輸入額が大幅に減少した。
  3. 安価な海外製品の流入により、国内製の出荷額が減少し、輸入額が国内出荷額を上回るようになった。
  4. 円安の影響で国内製品の価格競争力が高まり、国内製の出荷額が輸入額を大幅に引き離した。
- 問4 東北地方や九州地方において、宮城県や福岡県は地方の産業や交通の拠点となる「地方中枢都市」としての役割を担っています。これらの県が周辺の県と比較して持っている統計上の特徴として、最も適切な説明はどれですか。（2024年 福岡県公立入試 類似）
1. 農業に従事する世帯数が周辺県に比べて極めて多い
  2. 空港の利用客数のみが突出しており、陸上の交通網は未発達である
  3. 人口密度が低く、広大な森林面積を維持している
  4. 人口が300万人を超え、事業所数も15万以上と突出して多い
- 問5 1980年代から2040年までの人口推移のデータにおいて、日本の15歳から64歳の人口層は1990年代にピークを迎えた後、減少が続いています。このような人口構造の変化をもたらしている現代日本の社会現象と、その影響について述べたものとして正しいものはどれですか。（2019年 香川県公立入試 類似）
1. 老年人口の割合が低下したことで、社会保障制度の維持が容易になっている。
  2. 高度経済成長による人口爆発により、食料自給率の低下が課題となっている。
  3. 少子高齢化の進行により、将来的な労働力の不足が懸念されている。
  4. 年少人口の急増により、学校などの教育施設の不足が問題となっている。
- 問6 太陽光や風力、地熱といった、化石燃料を使わずに自然界に存在する力を利用し、一度利用しても比較的短期間に再生が可能で、繰り返し利用できるエネルギーの総称として正しいものはどれですか。（2023年 沖縄県公立入試 類似）
1. 鉱産資源エネルギー
  2. 化石燃料エネルギー
  3. 再生可能エネルギー
  4. 原子力エネルギー
- 問7 地域の再生を目的に、若者が魅力に感じる業種の企業を誘致し、地元で働ける環境を整えることで、その地域に住み続けてもらうことを目指す施策を何と呼びますか。（2016年 山形県公立入試 類似）
1. 高度経済成長の維持
  2. ユニバーサルデザインの推進
  3. 若者の定住促進
  4. グリーンツーリズムの実施
- 問8 北陸地方では、古くから伝統工芸品の生産が盛んに行われてきました。この産業が、地域活性化の核となるほど発達した背景や理由として最も適切な説明はどれですか。（2023年 大分県公立入試 類似）
1. ねぶた祭や七夕まつりの装飾品として、全国から大量の注文が入ったため
  2. 三つの本州四国連絡橋によって、原料の輸送と製品の出荷が容易になったため
  3. 雪深い冬の時期に、農作業ができない間の副業として工芸品の技術が磨かれたため
  4. 南半球からの観光客が、冬のレジャーとして工芸品作りを体験することを望んだため
- 問9 主要な産油国であるサウジアラビアでは、2009年には火力発電のみで電力をまかなっていましたが、2021年の統計では太陽光発電が804、風力発電が408（単位：百万キロワット時）導入されるなど、エネルギー構成に変化が見られます。このように、自然界から繰り返し得られ、二酸化炭素を排出しないエネルギー源を総称して何と呼びますか。（2025年 長野県公立入試 類似）
1. 再生可能エネルギー
  2. 化石燃料
  3. 原子力エネルギー
  4. バイオ燃料
- 問10 日本の人口ピラミッドの推移について述べた文として、最も適切なものを選択してください。（2021年 高知県公立入試 類似）
1. 1960年代は、平均寿命の延伸が止まったため、高齢層が極端に少ない形状を維持していた。
  2. 2015年ごろは、出生率の上昇により、ピラミッドの裾野が再び広がる形状に変化した。
  3. 1990年ごろは、若年層が最も厚く、高齢層に向かって急激に細くなる形状であった。
  4. 戦前の1940年ごろは、出生率が高く若年層が最も多い「富士山型」の形状であった。
- 問11 日本のエネルギー供給構成の変化について、2010年と2017年の統計を比較した記述として、正しいものはどれですか。なお、2010年は石油が40パーセント、天然ガスが18パーセント、原子力が11パーセントでしたが、2017年には天然ガスが23パーセント、再生可能エネルギーが9パーセントとなり、原子力の割合は大幅に低下しています。（2023年 福井県公立入試 類似）
1. 環境負荷の低減や震災の影響を受け、天然ガスや再生可能エネルギーの割合が高まった。
  2. 石炭の供給割合が再び増加し、1955年当時の水準である約50パーセントまで回復した。
  3. 原子力発電が安定した供給源として定着し、2017年には供給全体の4分の1を占めた。
  4. 石油の割合が激減し、2017年には天然ガスの供給量が石油を上回った。
- 問12 東京都心部や大阪市中心部では、昼間人口比率が極めて高い数値を示す傾向があります。このような現象が起こる主な理由として、都市の構造や機能の観点から説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2026年 山口県公立入試 類似）
1. 都心部では公共交通機関が未発達であるため、周辺地域へ働きに出る流出人口が制限されているため。
  2. 都心部では高齢化の影響で現役世代の人口が減少しており、相対的に昼間の観光客の割合が目立つようになっているため。
  3. 都心部は地価が安いいため、職場の近くに住居を構える職住近接の傾向が強まり、夜間人口が急増しているため。
  4. 都心部には企業の本社や官公庁、大学などの施設が集中しており、郊外のニュータウンなどから多くの人々が移動してくるため。